

第1回ユースオリンピック冬季競技大会への 選手発掘・育成・輩出への取り組み 傍聴記

- 伊達な SPORT PROJECT -

平田 大輔 (文学部准教授)

第1回ユースオリンピック冬季競技大会への選手発掘・育成・輩出への取り組みについて、高橋教授に説明して頂いた。この取り組みは、2012年2月にオーストリア（インスブルック）で開催される第1回ユースオリンピック冬季大会にPDCAサイクルによる地域密着型スケルトン競技のタレント発掘・育成・評価プログラムの実践から選手を輩出し、好成績を収めることを目標としてプロジェクトが行われた。その内容について紹介頂いた。

プロジェクト内容

選手は、高大連携事業を実施している高等学校に在学する1995年1月～3月生まれの男子および女生徒から選抜。これはユースオリンピックには年齢制限があり、大会開催時の年齢を考慮して選抜している。

高等学校では個人競技の部活動に所属し、通常の活動は高等学校の部活動を優先としている。仙台大学における活動は部活動の行われない日に行い、高体連主催の各種大会や定期試験の前の活動は行わない。基本的活動費（合宿・遠征・保険料など）は、仙台大学で予算化している。また物資的サポートシステムを導入し、プロジェクトに賛同を

得られた協賛企業からのトレーニングウェア、競技用スーツ、乳製品、水、その他食品等の物資的サポートを受けている。

ユースオリンピックでは文化・教育プログラムが実施されることを踏まえ、食育、語学等の教育プログラムや専用ホームページを通しての情報発信を行い、選手自身も日々の活動をブログとして掲載している。

練習・指導に関して

12月～1月の滑走トレーニングは長野スパイラルにて実施。長野スパイラルが閉鎖される2月以降は海外にて滑走トレーニングを実施。月1回程度、保護者も含めたミーティング（含むレクチャー・食事会）を実施し、生活・活動内容をスタッフ、選手、保護者で共有している。安全面に考慮し、トレーニングは仙台大学の専門スタッフの監視・指導の下で実施している。

プロジェクトの結果

約20か月間に亘るプロジェクトの結果、発掘・育成してきた3名（男子2名、女子1名）をユースオリンピックゲームに出場。残念な

がら入賞させることは出来なかったが怪我をさせることなく、無事にプロジェクトを終了している。

これからの課題

長野スパイラルは11月末から1月末でコースが閉鎖される。その他の期間は海外へ遠征して滑走トレーニングを実施する必要があるため、海外遠征による滑走トレーニングが必要になる。世界に通用する選手を育成していくためには、可能な限り国内施設を使用できる状態に保つことが必要である。

また、各方面でタレント発掘事業が展開され、有望な子供は発掘されているものの、16歳～22歳の高校・大学生の年代の若者に対する将来的な展望に立った育成の体制を含めた取り組みは模索状態にある。他組織等においても、それぞれが持つノウハウを生かした種目特化タレント発掘・育成・輩出プロジェクトが展開されれば、将来へ向けて世界で戦える有望なアスリートの育成・輩出が可能になってくるのではないかと示された。

